資料３

民話「12人姉妹」の梗概

紹介：**平松 秀樹**

長者が神（仏）に祈る。12本（１房）のバナナをお供えして祈願（短いバナナ）。

12年連続で毎年子供が生まれる（毎年双子で６年、あるいは一度に12っ子が生まれる場合もある。あるいは何年か不詳の場合も）。末妹のパオが一番容姿端麗で賢く生まれる。

長者は貧乏に。

両親が相談して、後ろ髪ひかれる思いでしぶしぶ子供を捨てに行く（両親ともに困窮の原因となった12姉妹を憎く思う場合あり。また母親が後妻（継母）で、夫に12姉妹を捨てることを指示する場合も。あるいは母親が夫娘を見捨てて先に家出する場合もある）

12姉妹森に薪をとりに父親と出かける（母親も行く場合あり）。

３回トライする。２回は末妹の賢さにより失敗。

１回目、道中、バナナの葉の切れ端を少しずつちぎって捨て、目印にして無事に家に帰る。

２回目、サトウキビを噛んで切れかすを捨て、再び無事に帰る。

３回目、（おにぎり）ご飯を少しずつ落とす。鳥などが食べてしまって失敗。

森を彷徨う。女夜叉サンタラーに気に入られる、養女として大切に育てられる。

長女（末妹の場合も）が夜叉の正体に気づく。逃亡。

象の腹、馬の腹、（水）牛の腹にかくまってもらい、無事逃亡。

池の畔のバンヤン樹に到着。

「せむし」の水汲み女が金、銀、皮の壺を持って三回登場。金、銀の壺を破壊。三回目に皮の壺を投げ捨てるが、割れないので樹上の12姉妹に笑われる。王様に報告。

王様ロットシット（ロッタシット）登場。12姉妹を王妃に。

12姉妹は、以前捨てられたとはいうものの、実の親の恩を忘れず、孝行するため財宝を親元に届けさせる（自ら行く場合も）。

女夜叉は事の次第を知り、美女に変化して同様にバンヤン樹に登る。水汲み女が王に報告。

変身した女夜叉、王様に最も気に入られ第一王妃となる。惚れ薬・惚れ呪文も使用。

女夜叉、仮病を装い12姉妹の目玉が必要と王様に告げる。

12姉妹、目をくり抜かれて洞窟に入れられる（洞窟に入る経緯は様々）。

懐妊しているのでそれぞれ順番に子を産む（死産の場合も）。

乳児の肉を千切って分配して食べる（各々が自分の子のみを食べる場合も）。

末妹は自分の分け前を食べずにとっておき、自分の子が産まれた時にその肉と偽って姉たちに分配して、隠して子を育てる（子は泣くことのない超自然児）。

男児ロットセーンは無事成長して洞窟の外へ（成長の速さは様々。３日～３年）。

ひよこ（雄鶏）に出遭う（ひよこはインドラ神、インドラ神の従僕、ヴィシュヌ神の変化など）。

ひよこは成長して闘鶏にめっぽう強い。ロットセーンも賭け事に強い（サイコロ賭博？　賭博の内容は地域・国によってそれぞれの地方色を反映）。

国王との賭博（タイ将棋・チェス）の勝負に勝つ（国を賭けた他国の王との闘鶏勝負に勝つ場合も）。

国王に小姓に取り立てられる（ここで親子であると判別する場合や、物語の最後まで判別しない場合がある）。

夜叉の王妃は、再び仮病を装い、「欠伸するマンゴー（またはサボン）・吼えるライム」を自国の夜叉国までロットセーンに取りに行かせるよう所望。

ロットセーン、駿馬（天翔ける馬）パーチーを得て出立。

内容も知らぬまま、夜叉王妃の書状「昼についたら昼に食べよ（キン）。夜についたら夜に食べよ」を携える。途中、ルシー（隠者、行者）のところで休憩。

隠者、内容を「昼についたら昼に歓待せよ（ラップ）。夜についたら夜に歓待せよ。婚姻の儀を行うべし」と書き換える。ロットセーン、夜叉国に到着。

ロットセーンは成長した女夜叉の娘のメーリーと一目で感応する（メーリーは女夜叉の養女で血はつながっていないとの説や、メーリーは女夜叉の友人である男夜叉と人間妻の間に生まれた子であるとの説もある）。

書状により婚礼の儀を行う。幸せのため、ロットセーンは暫く（７か月の場合も）母たちのことを忘れる。

馬が国に帰るように警告する（隠者によって人間の言葉がしゃべれるようになった場合）。

宝物（木の実等）を盗んでこっそり抜け出す。後を追うメーリー（魔法の「実」は、途中で出逢った隠者より得る場合も）。

木の実を投げ、第一に大山（暴風雨）、第二に大火（森）、第三に大海（大河・湖）に隔てられる。（木の実の数および順番は様々。最後の大海は共通）。

最後の大海だけは渡ることができず、力尽きるメーリー（すぐ死ぬ場合と、後からの場合と。また悔しさと悲しさのあまり胸が７つに割れて死ぬ場合も）。

メーリー、来世は立場が逆になるようにと末期の祈願。恋焦がれて追う苦しみを分かってほしい（タイでは『マノーラー』物語に続く）。

ロットセーン、国に帰って夜叉王妃を退治。女夜叉が巨大化し、魔法の杖で成敗（夜叉国から持ち帰った夜叉王妃の心臓をロットセーンがつぶす場合や、戦う以前に夜叉王妃が娘を失ったことを知り悲しみのあまりショック死する場合も）。

ロットセーンがロットシット王の実の王子と判明する。12姉妹も王妃に復権。

ロットセーンは急いでメーリーに会いに行く（暫くして行く場合も）。

亡骸と再会し、ロットセーンも反省して息絶える。

■注目点

- 末妹が一番美しく賢いのは何故？
- 誰が助ける？　インドラ神、テーワダー（神人、天人）？
- 懐妊は自然？　女夜叉の仕業？
- 女夜叉が自分で12姉妹の目をえぐるか否か？　自らの場合、最後は手がつかれて片目だけの場合も。
- 死産か？　産んだ後死んで食べるのか？
- 12姉妹の苦難の因は？　一般には、魚の目に縄を通した業および前世の業の報い。しかしタイでは親への報恩（親孝行）が最も大切な価値観。12姉妹の苦しみは、夜叉とはいえ養母の恩に背いた報いか？
- 人間（12姉妹）は一皮抜けば実の子の肉を喰らい夜叉と何らかわりない存在。あるいは夜叉のほうが誠実？
- メーリーは妻の鑑。夫に全幅の信頼を寄せ、夫に尽くし報恩（ガタンユー）を忘れない。しかしロットセーンにとっては妻より母が大事。